

文化スポーツ観光部

実施計画事業

令和7年度 事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	2	項	1	目	7	説明資料	18	項目番号	2(1)
事務事業名	都市魅力PR事業								所管部課名	文化スポーツ観光部 企画課		

(1) 事務事業の概要

実施分類	部分委託	財源構成	国・県	受益者負担	なし	事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令							
実施計画	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興					分野別計画
	中柱	音楽やダンス・エンターテインメントによるにぎわいの創出					
	小柱	④大河ドラマの活用					
目標	横須賀らしいエンターテインメントによる賑わいづくりや話題性のある取り組みを横須賀の都市の魅力として情報発信を行うことにより、市内外からの集客を生み、市内経済の活性化を図る。						
目標達成に必要なこと	・音楽、スポーツ、エンターテインメント、地域資源を活用した取り組みなどを都市魅力として、情報発信を行う。 ・伝えたい情報に適した媒体を検討し、時世にあった発信を行う。						
具体的な事業内容	本市の特性やポテンシャルを生かした新たな都市魅力を創出、PRするための取り組みを行う。 エンターテインメントをテーマに、アートやダンス、音楽、地域資源の活用に関する発信力の高い取り組みを実施することで、街の賑わいを創出し、新しい都市魅力に繋げる。						

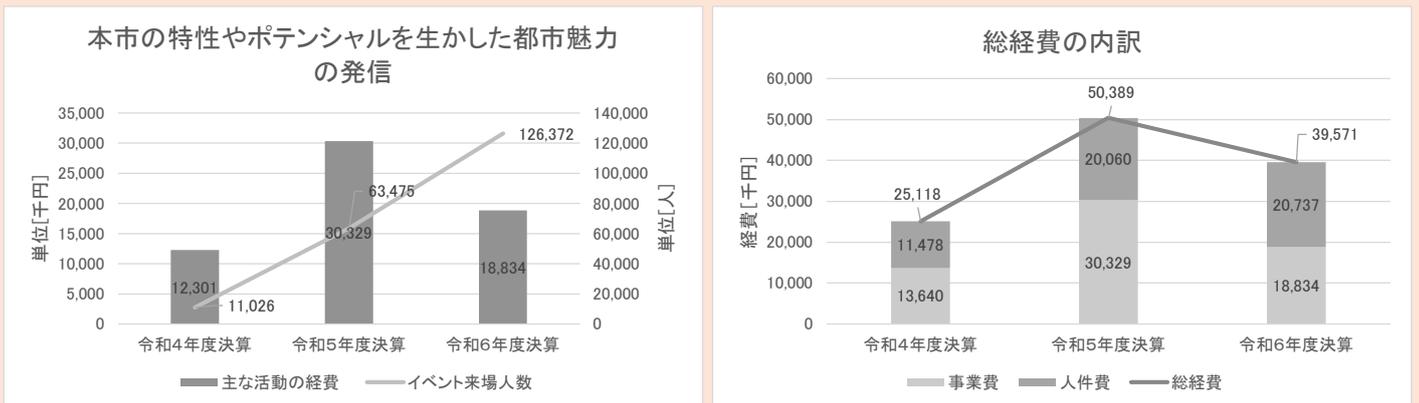
(2) 本事務事業における主な活動の実績

主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った 重要な項目1つ)	活動(指標)名	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位
① 本市の特性やポテンシャルを生かした都市魅力の発信	イベント来場人数	11,026	63,475	126,372	人
その他の活動実績	活動(指標)名	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位
②					
③					

(3) 1年間の本事業執行にかかる経営資源(人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります)

区分	令和4年度決算	令和5年度決算	令和6年度決算	令和6年度予算	単位
a 事業費(予算現額・支出済額)	13,640	30,329	18,834	21,540	千円
主な活動の経費(※上記(2)①)	12,301	30,329	18,834	21,540	千円
その他の活動経費(※上記(2)①以外の経費)	1,339	0	0	0	千円
b 人件費	11,478	20,060	20,737	20,642	千円
正規職員	1.0	2.0	2.0	2.0	人
再任用職員(短時間を含む)	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員(フルタイム、パートタイム)	3,047	3,268	3,595	3,676	千円
総経費(a + b)	25,118	50,389	39,571	42,182	千円

(4) 年度ごとの推移(【主な活動の実績(※上記(2)①)】と【総経費の内訳】)



主な活動に係る変更点(※上記(2)①) R4年度⇒R5年度	令和4年度までの取り組みに加え、エンターテインメント誘致事業にて実施していた「大河ドラマを契機とした三浦一族に関連した取り組み」及び「浦賀ドックを活用したイベント」を実施した。また、民間事業者と連携した大規模イベント等(オクトーバーフェスト、イルミネーション)を実施した。	主な活動に係る変更点(※上記(2)①) R5年度⇒R6年度	民間事業者と連携した大規模イベント等(オクトーバーフェスト、ワインフェスティバル)の拡充、新規誘致などを行いながら、横須賀のポテンシャルを活かした話題性のある取り組みを中心に情報発信を行い、市内外からの集客数の増加につながる取り組みを実施した。
年度ごとの推移の分析(【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等)	令和4年度にエンターテインメント誘致事業として行ったNHK大河ドラマを契機とした取り組みや浦賀ドックを活用したイベントなどの地域資源を活用したPRを都市魅力PR事業として実施したため、令和5年度はその分の経費と当事業の活動実績が大幅増加した。令和6年度は事業費規模を戻しつつも、ヴェルニー公園での「オクトーバーフェスト」や「ワインフェスティバル」など話題性や集客力があり、都市魅力の向上に資するイベントを中心に、取り組みのターゲットや特徴に適した手法や媒体を活用しながら情報を発信した。その結果、本事業でPRしたイベントの集客につながった。		
今後の事業の方向性	各取り組みのターゲットや特徴に適した手法や媒体を検討して、情報発信を継続し、「本市の都市魅力」の認知拡大と定着を図る。また、新たな都市魅力創出につながる民間の取り組みなどとの連携や支援を積極的に行う。		

令和7年度 事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	2	項	1	目	9	説明資料	21	項目番号	2(5)
事務事業名	ルートミュージアム推進事業								所管部課名	文化スポーツ観光部 文化振興課		

(1) 事務事業の概要

実施分類	部分委託	財源構成	市単	受益者負担	なし	事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令							
実施計画	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興				分野別計画	
	中柱	ルートミュージアムのさらなる強化					
	小柱	①ティボディエ邸と周辺の仕掛けづくり					
目標	ルートミュージアムの中核拠点である「ティボディエ邸」の管理・運営を行うとともに、ティボディエ邸及びルートミュージアムの認知度向上と集客促進に向けた取り組みを行い、多くの観光客に市内周遊を促し、長時間の滞在と消費増を目指し、地域経済の活性化を図る。						
目標達成に必要なこと	ティボディエ邸館内の魅力向上を図るとともに、ティボディエ邸周辺でのイベント等との連携や主催イベント等を実施することで認知度の向上と来館契機を創出し、集客と周遊を促す。						
具体的な事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ティボディエ邸の管理運営 ・ティボディエ邸の認知度向上と来訪を促すためのパンフレット・チラシ制作 ・周遊を促すVRコンテンツ制作と周知PR 						

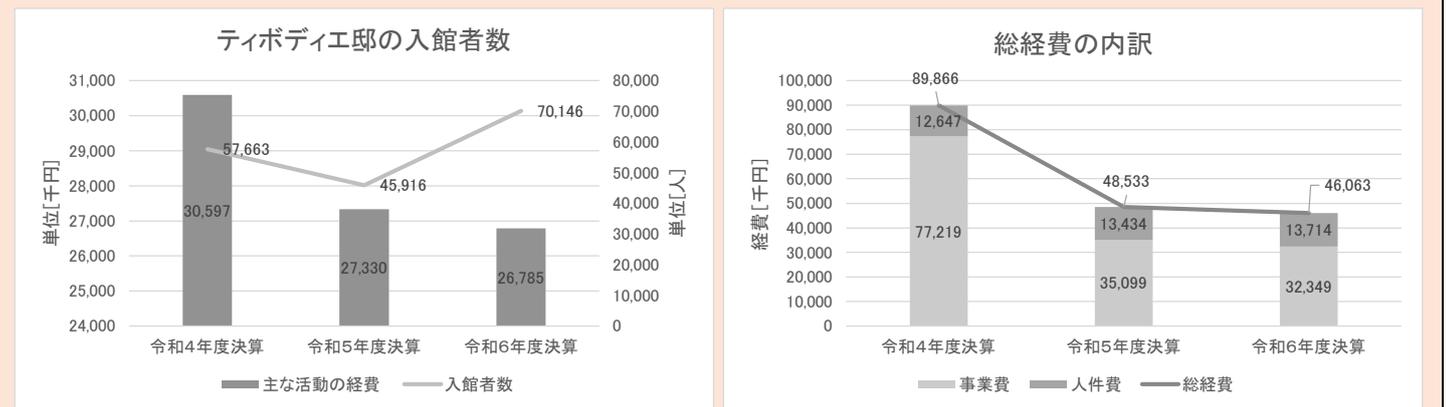
(2) 本事務事業における主な活動の実績

主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った重要な項目1つ)	活動(指標)名	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位
① ティボディエ邸の入館者数	入館者数	57,663	45,916	70,146	人
その他の活動実績	活動(指標)名	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位
② ティボディエ邸のパンフレット・チラシ制作	印刷部数	3,350	26,000	43,000	部
③ VRアプリのダウンロード数	ダウンロード数	7,229	4,612	2,414	回

(3) 1年間の本事業執行にかかる経営資源(人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります)

区分	令和4年度決算	令和5年度決算	令和6年度決算	令和6年度予算	単位
a 事業費(予算現額・支出済額)	77,219	35,099	32,349	35,262	千円
主な活動の経費(※上記(2)①)	30,597	27,330	26,785	27,222	千円
その他の活動経費(※上記(2)①以外の経費)	46,622	7,769	5,564	8,040	千円
b 人件費	12,647	13,434	13,714	13,573	千円
正規職員	1.5	1.6	1.6	1.6	人
再任用職員(短時間を含む)					人
会計年度任用職員(フルタイム、パートタイム)					千円
総経費(a + b)	89,866	48,533	46,063	48,835	千円

(4) 年度ごとの推移(【主な活動の実績(※上記(2)①)】と【総経費の内訳】)



主な活動に係る変更点(※上記(2)①) R4年度⇒R5年度	シアター新作映像を公開した。 ティボディエ邸について網羅するガイドブックを制作した。 立地するヴェルニー公園内に案内板を2か所設置した。	主な活動に係る変更点(※上記(2)①) R5年度⇒R6年度	シアター映像をPRするチラシを制作し、配布した。 公園内のイベントと連動するイベントを実施した。 施設外側に植物等を設置し、入館しやすい雰囲気を作った。 汐入駅前の案内板更新、施設入口に銘板を設置した。
年度ごとの推移の分析(【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等)	令和6年は、公園内のイベントと連動したイベントの実施を強化し、来館者増を図った。また、シアター映像に特化したチラシを制作し、通年で配布したほか、海外観光客向けに、施設案内パンフレットの英語版を制作・配布した。最寄り駅である汐入駅前の案内板を更新し、新たに施設までの案内を入れた。施設においては、植物や銘板を設置するなどして、入館しやすい雰囲気の向上を図った。 【R4→R5】新ムービーの制作費用の減により、総経費も大幅な減となった。来館者数は前年度と比較して繁忙期の休日に悪天候が多かったことや、夏場の落ち込みが大きかったため、低迷した。 【R5→R6】事業費については、実施内容や実施回数の変更、見直し等により、当初の見込みを下回った。来館者数は、上記の主な活動のほか、指定管理者の運営努力、天候等の外的要因も味方して、開館以来過去最高を記録した。		
今後の事業の方向性	年間を通じてヴェルニー公園のイベントと連携するなど、ルートミュージアムの起点として認知度向上と来館契機創出に取り組む。		

令和7年度 事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	2	項	1	目	9	説明資料	23	項目番号	2(6)
事務事業名	街なかミュージック支援事業								所管部課名	文化スポーツ観光部 企画課		

(1) 事務事業の概要

実施分類	部分委託	財源構成	国・県	受益者負担	なし	事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令							
実施計画	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興				分野別計画	
	中柱	音楽やダンス・エンターテインメントによるにぎわいの創出					
	小柱	①音楽によるにぎわいづくり					
目標	市、事業者及びアーティストが協力し、街なかをステージとした音楽ライブの場を創出・提供していくとともに、アーティストやその活動、イベント情報を発信し、常に音楽のあふれた、ワクワクする街づくりを進めていく。						
目標達成に必要なこと	街なかで音楽に触れ合う機会の充実として、音楽ライブの実施やいつでも音楽を奏でる場所を提供するとともに様々な媒体で情報発信する。						
具体的な事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・街なかをステージとした音楽ライブ ・トモダチジャズと連携した音楽イベント ・バンドグランプリの開催 ・SNS等を通じた音楽の発信 ・ヨコスカ街なかピアノの維持管理 						

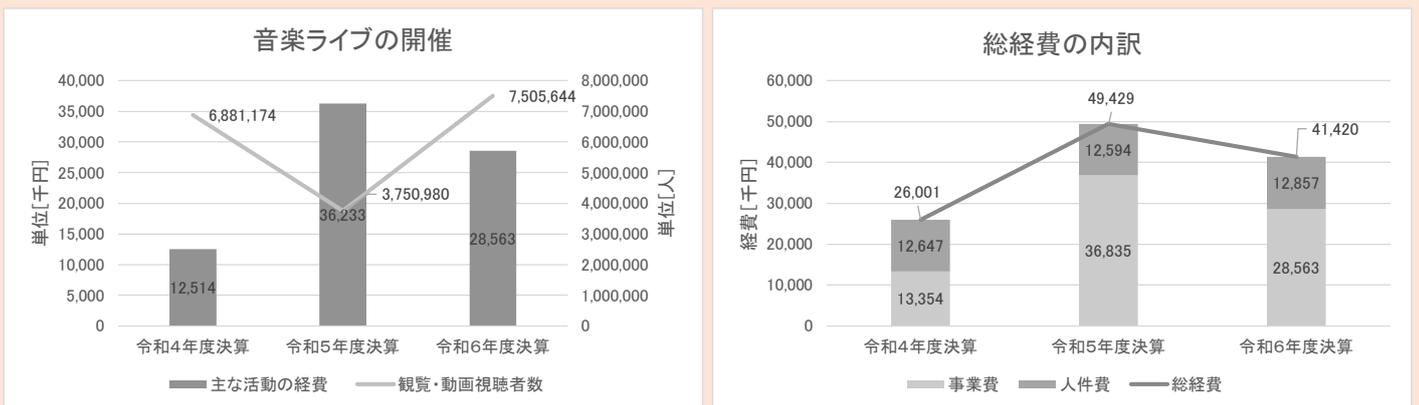
(2) 本事務事業における主な活動の実績

主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った 重要な項目1つ)	活動(指標)名	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位
① 音楽ライブの開催	観覧・動画視聴者数	6,881,174	3,750,980	7,505,644	人
その他の活動実績	活動(指標)名	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位
②					
③					

(3) 1年間の本事業執行にかかる経営資源(人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります)

区分	令和4年度決算	令和5年度決算	令和6年度決算	令和6年度予算	単位
a 事業費(予算現額・支出済額)	13,354	36,835	28,563	29,350	千円
主な活動の経費(※上記(2)①)	12,514	36,233	28,563	29,350	千円
その他の活動経費(※上記(2)①以外の経費)	840	602	0	0	千円
b 人件費	12,647	12,594	12,857	12,725	千円
正規職員	1.5	1.5	1.5	1.5	人
再任用職員(短時間を含む)	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員(フルタイム、パートタイム)	0	0	0	0	千円
総経費(a + b)	26,001	49,429	41,420	42,075	千円

(4) 年度ごとの推移(【主な活動の実績(※上記(2)①)】と【総経費の内訳】)



<p>主な活動に係る変更点(※上記(2)①)</p> <p>R4年度⇒R5年度</p>	<p>コロナによる社会情勢の変化から、従来の生活様式に戻つつあることを鑑みて、オフラインの音楽ライブを開催した。音楽に触れ合う機会の創出や市内周遊に伴う消費の拡大につなげるため、既存のジャズイベントと同時期に、ロックをテーマにした新たなイベントを開催した。</p>	<p>主な活動に係る変更点(※上記(2)①)</p> <p>R5年度⇒R6年度</p>	<p>令和5年度に実施したトモダチジャズと連携した音楽イベントの開催内容の見直しを実施したほか、インフルエンサーとのタイアップをはじめ、オフラインとオンラインの音楽ライブ開催を展開した。</p>
<p>年度ごとの推移の分析(【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等)</p>	<p>・令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、新しい生活様式に対応したオンライン配信などの事業展開を継続的に実施した結果、650万回を超える動画視聴回数となり、多くの方に街なかミュージックライブを通して、横須賀の魅力を実感していただくことができました。</p> <p>・令和5年度は、バンドコンテストやジャズをテーマにしたオフラインの音楽ライブを実施して、実際に市内へ誘客を図ることで街なかの賑わいを創出するとともに、同時にオンラインでの発信を行うことで、広く横須賀の魅力を実感していただくことができました。観覧・視聴者数としては、コロナによるオンライン配信の需要が落ち着いてきたこともあり減少することになったが、実際の集客を伴う音楽ライブを開催することにより市内消費を促進した。</p> <p>・令和6年度は、事業費規模を抑えながらも令和5年度に実施したイベント内容を継続して実施したほか、YouTubeチャンネル登録者100万人を超える3名のインフルエンサーがヨコスカ街なかピアノの演奏動画を配信したことなどにより、観覧・動画視聴者数を増やすことができました。</p>		
<p>今後の事業の方向性</p>	<p>音楽の力を通して、以下のような魅力発信を行うことで、今後も街なかに音楽が溢れる環境を醸成して、関係人口や新たな投資の増へつなげていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横須賀らしい風景の中での音楽インフルエンサーによる魅力発信 ・地元音楽家と連携した魅力発信 ・大規模音楽イベントの開催による魅力発信 ・スポーツなど他のコンテンツと連携した魅力発信 		

令和7年度 事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	2	項	1	目	9	説明資料	23	項目番号	2(7)
事務事業名	エンターテイメント推進事業								所管部課名	文化スポーツ観光部 企画課		

(1) 事務事業の概要

実施分類	部分委託	財源構成	国・県	受益者負担	あり	事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令							
実施計画	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興				分野別計画	
	中柱	音楽やダンス・エンターテイメントによるにぎわいの創出					
	小柱	②ダンスによるにぎわいづくり					
目標	アート、ダンス、音楽を切り口とした横須賀らしいエンターテイメントによる継続的な賑わいづくりを、横須賀の都市魅力として内外に発信する。エンターテイメント＝横須賀のイメージが広く認識されることにより、地域ブランド力の向上と地域活性化を目指す。						
目標達成に必要なこと	<ul style="list-style-type: none"> ・横須賀ならではの地域資源の活用 ・民間企業との連携による、より話題性の高い取り組みの実施 						
具体的な事業内容	エンターテイメントをテーマに、アートやダンスに関する発信力の高い取り組みを実施することで、街の賑わいを創出し、新しい都市魅力に繋げる。						

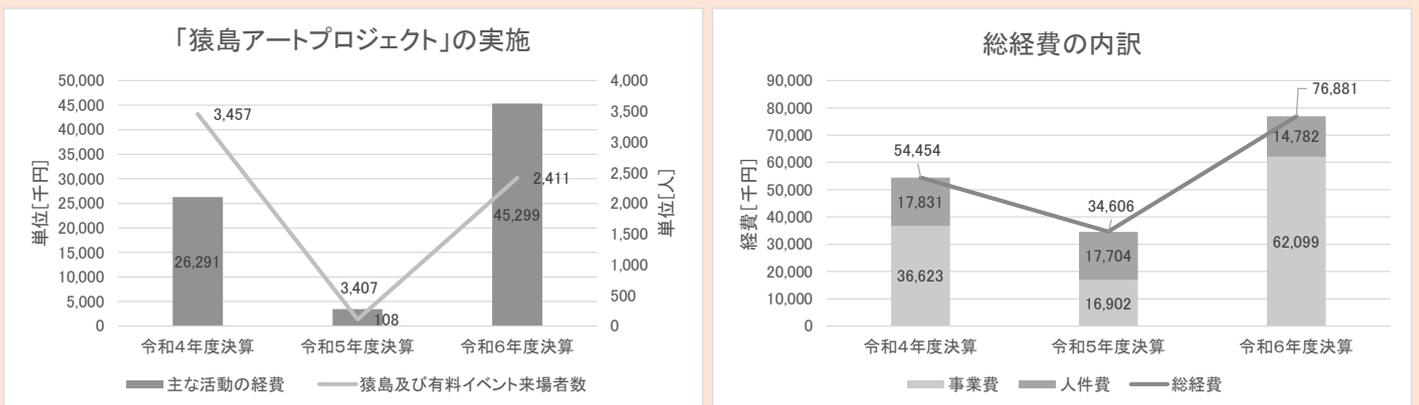
(2) 本事務事業における主な活動の実績

主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った 重要な項目1つ)	活動(指標)名	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位
①「猿島アートプロジェクト」の実施	猿島及び有料イベント来場者数	3,457	108	2,411	人
その他の活動実績	活動(指標)名	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位
②「ダンスプロジェクト」の推進	プロジェクト参加者	3,287	4,415	4,978	人
③					

(3) 1年間の本事業執行にかかる経営資源(人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります)

区分	令和4年度決算	令和5年度決算	令和6年度決算	令和6年度予算	単位
a 事業費(予算現額・支出済額)	36,623	16,902	62,099	64,610	千円
主な活動の経費(※上記(2)①)	26,291	3,407	45,299	45,500	千円
その他の活動経費(※上記(2)①以外の経費)	10,332	13,495	16,800	19,110	千円
b 人件費	17,831	17,704	14,782	15,355	千円
正規職員	1.5	1.5	1.0	1.0	人
再任用職員(短時間を含む)	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員(フルタイム、パートタイム)	5,184	5,110	6,211	6,872	千円
総経費(a + b)	54,454	34,606	76,881	79,965	千円

(4) 年度ごとの推移(【主な活動の実績(※上記(2)①)】と【総経費の内訳】)



<p>主な活動に係る変更点(※上記(2)①)</p> <p>R4年度⇒R5年度</p>	<p>令和5年度は、これまでの開催実績の振り返りと、本市の地域資源の再調査を行い、令和6年度リニューアル開催の方向性を検討すると共に、リニューアル開催に向けたプレイベントを3回行った。その他の活動実績においては、新たに小中学生を対象としたジュニアダンス大会を実施した。</p>	<p>主な活動に係る変更点(※上記(2)①)</p> <p>R5年度⇒R6年度</p>	<p>R6年度における猿島アートプロジェクトは、夜間の無人島・猿島を会場としたアート体験やイベント等をインバウンド向けに多言語化し、新たに複数の会場(観音崎公園・三笠公園・横須賀美術館・ヴェルニー公園など)にアート作品を展示し特別公開した。</p>
<p>年度ごとの推移の分析(【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等)</p>	<p>・令和4年度は会期を11-12月に戻し、陸側での作品展示や美術館でのワークショップの開催などにより、猿島アートプロジェクトの面的な拡充を試みた。また、優れた地域の取り組みとして、日本最大のデザイン賞である「GOOD DESIGN AWARD 2022」を受賞することができた。</p> <p>・令和5年度は開催実績の振り返りと地域資源の再調査を中心に実施し、集客イベントの開催は3回であったため、活動実績数は108人に留まった。</p> <p>・令和6年度は国際的に活躍するアーティストのチェ・ジェンファ氏らの作品を展示するほか、複数の会場を著名なアーティストと巡る人数を限定したプレミアムツアーやカンパレンスの実施、藍染めや土器制作ワークショップ等の外国人向けコンテンツの新規実施など、高付加価値旅行者層が高い興味を示すアートを核とした特別体験を提供した。</p> <p>・ダンスプロジェクトでは、令和4年度から令和6年度にかけて、ターゲットとする世代・対象を広げて毎年新たな大会を誘致・開催したことで、大会の開催数が増え、経費も増加した。</p>		
<p>今後の事業の方向性</p>	<p>猿島アートプロジェクトは、過去の開催実績をもとに、今後の方向性を検討している。ダンスプロジェクトの推進については、全世代に渡る大会を引き続き継続して誘致・開催し、「アーバンスポーツのまち横須賀」のイメージ定着を図る。</p>		

令和7年度 事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	2	項	1	目	20	説明資料	32	項目番号	2(1)
事務事業名	美術館展覧会事業								所管部課名	文化スポーツ観光部 美術館運営課		

(1) 事務事業の概要

実施分類	直営	財源構成	その他	受益者負担	あり	事業終了の見込	未定
分類	法律や政令で実施が定められているものの、その実施内容や実施方法、実施体制については市に委ねられている業務						
根拠法令	博物館法						
実施計画	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興				分野別計画	横須賀市教育振興基本計画
	中柱	ルートミュージアムのさらなる強化					
	小柱	⑥美術館の集客力の向上					
目標	次世代を担う子どもたちを含めた多くの人々が、質の高い美術に対する深い理解と親しみを心得、心の豊かさを充足する機会を提供する。また、郷土ゆかりの作品を展示し、市民や作家の交流を通じて、新たな文化を発信する。						
目標達成に必要なこと	すべての人に開かれた美術館であるために、年間の企画展・所蔵品展を通じて幅広いジャンルの展覧会を開催する。展覧会の効果を最大限発揮するために、教育普及事業や、他部課や民間事業者と連携をはかる。						
具体的な事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの人に親しみやすく、集客を見込める展覧会の開催。またそれに関連するイベント等の実施。 ・親子を対象にした、質が高くかつ身近に感じられ、美術館に親しめる内容の展覧会の開催。 ・横須賀、三浦半島という地域に関連のある展覧会の開催。 ・横須賀美術館のコレクションを核とし、調査研究をふまえて新たな着眼点で構成する所蔵品展、谷内六郎展の開催および情報発信。 						

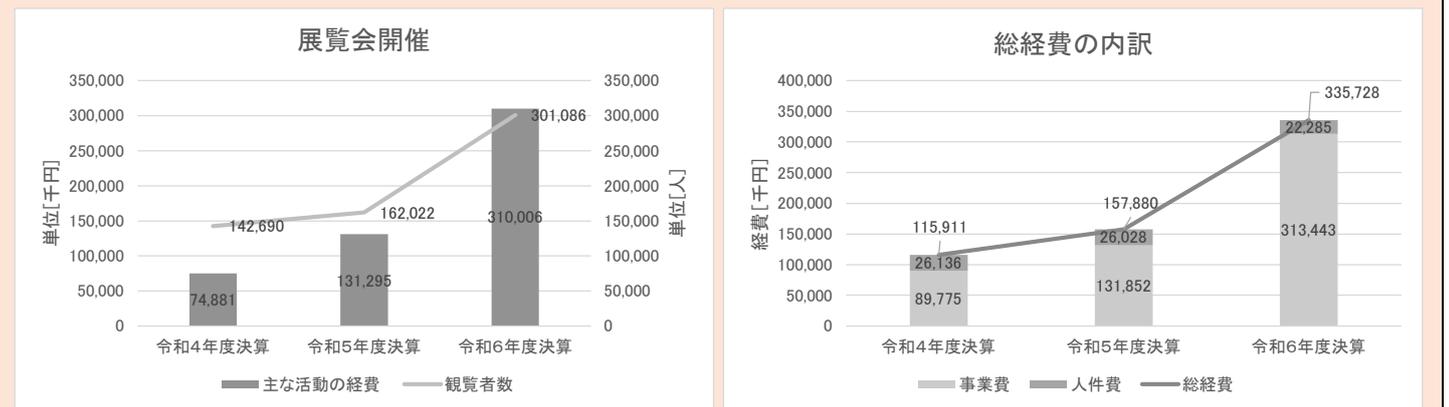
(2) 本事務事業における主な活動の実績

主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った 重要な項目1つ)	活動(指標)名	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位
① 展覧会開催	観覧者数	142,690	162,022	301,086	人
その他の活動実績	活動(指標)名	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位
② 展覧会に関連したイベント等の開催	開催回数	3	3	3	回
③					

(3) 1年間の本事業執行にかかる経営資源(人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります)

区分	令和4年度決算	令和5年度決算	令和6年度決算	令和6年度予算	単位
a 事業費(予算現額・支出済額)	89,775	131,852	313,443	241,853	千円
主な活動の経費(※上記(2)①)	74,881	131,295	310,006	240,353	千円
その他の活動経費(※上記(2)①以外の経費)	14,894	557	3,437	1,500	千円
b 人件費	26,136	26,028	22,285	22,056	千円
正規職員	3.1	3.1	2.6	2.6	人
再任用職員(短時間を含む)	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員(フルタイム、パートタイム)	0	0	0	0	千円
総経費(a + b)	115,911	157,880	335,728	263,909	千円

(4) 年度ごとの推移(【主な活動の実績(※上記(2)①)】と【総経費の内訳】)



主な活動に係る変更点(※上記(2)①) R4年度⇒R5年度	R5年度から箱根との観光誘客連携の取り組みの一環として、箱根エリアの美術館の展示や、サブカルチャーを題材にした「日本の巨大ロボット群像展」、そして「鈴木敏夫とジブリ展」を開催して、大きな反響を得た。	主な活動に係る変更点(※上記(2)①) R5年度⇒R6年度	前年度に引き続き箱根との連携として箱根彫刻の森美術館と「響きあう20世紀美術」を、さらに運慶仏5尊の展示、サルバドール・ダリ展を開催した。そして、R5年度からジブリ展を引き続き展示し、観覧者数が増大した。企画展の本数も例年6本から8本に増えている。
年度ごとの推移の分析(【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等)	主な活動実績として「展覧会開催」を掲げている。R4年度は新型コロナウイルス感染症が落ち着き始め、市長部局への移管があり、「運慶展」や関連事業として能楽公演、地域と連携して取り組んだ「スカジャン展」を開催した。R5年度は箱根エリアとの連携企画や、「日本のロボット群像展」、そして何より3月下旬から人気の高い「鈴木敏夫とジブリ展」を開催したことによって、観覧者数を押し上げている。R6年度は前年度より続くジブリ展の爆発的な観覧者数の増加や、箱根彫刻の森美術館との連携展示、第二弾運慶展、人気の高いサルバドール・ダリ展により、過去最高観覧者数を記録した。またジブリ展の費用のため、総経費も上がっている。企画展の内容は毎年変わるために、個々の展覧会にかかる経費や観覧者数には変動があるが、目標人数は達成、大幅な更新をしている。		
今後の事業の方向性	美術館展覧会事業は、社会教育に寄与すると同時に、本市の重要な魅力発信、まちづくりや観光事業にも寄与するので、事業は継続する。同時により質や効果が高い内容を検討する。		

令和7年度 事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	8	項	1	目	2	説明資料	39	項目番号	2(1)
事務事業名	商業振興対策事業								所管部課名	文化スポーツ観光部 商業振興課		

(1) 事務事業の概要

実施分類	補助金等	財源構成	市単	受益者負担	あり	事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令							
実施計画	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興				分野別計画	
	中柱	周遊と消費の促進					
	小柱						
目標	地域経済及び地域コミュニティの核となる商店街の組織力強化や振興を図ることで、市内経済の活性化及び市民生活の利便性向上につなげるため、商店街団体を対象にした諸施策を行う。また、魅力ある店舗や、意欲的な事業者を支援することで、市内消費の拡大及び商業の活性化を図る。						
目標達成に必要なこと	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街や関係団体と連携し経済活性化を図る。 ・観光、文化、スポーツなどによる集客を市内消費につなげる。 						
具体的な事業内容	<ul style="list-style-type: none"> (1) 商店街との連携、支援(横須賀市等が行うイベントとの連携や、商店街実施事業への補助金による支援など) (2) 商工会議所等関係団体との連携 (3) 中小事業者のEC導入及びSNS発信等の支援や、店舗出店促進の支援など 						

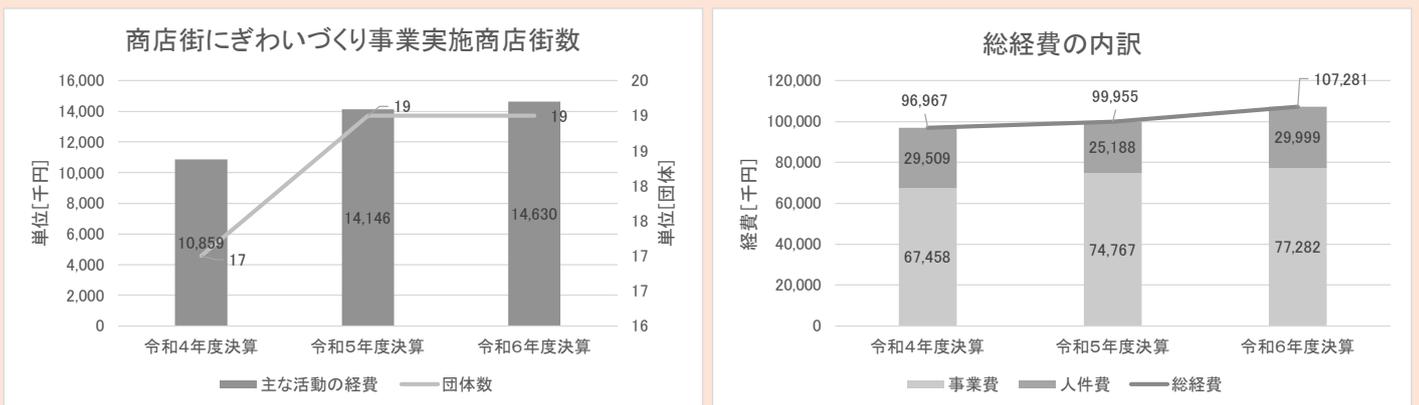
(2) 本事務事業における主な活動の実績

主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った 重要な項目1つ)	活動(指標)名	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位
① 商店街にぎわいづくり事業実施商店街数	団体数	17	19	19	団体
その他の活動実績					
② 商店街プレミアム商品券事業補助金	件数	10	10	10	件
③ 空き店舗出店促進事業補助金	件数	5	6	6	件

(3) 1年間の本事業執行にかかる経営資源(人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります)

区分	令和4年度決算	令和5年度決算	令和6年度決算	令和6年度予算	単位
a 事業費(予算現額・支出済額)	67,458	74,767	77,282	99,400	千円
主な活動の経費(※上記(2)①)	10,859	14,146	14,630	19,888	千円
その他の活動経費(※上記(2)①以外の経費)	56,599	60,621	62,652	79,512	千円
b 人件費	29,509	25,188	29,999	29,691	千円
正規職員	3.5	3.0	3.5	3.5	人
再任用職員(短時間を含む)	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員(フルタイム、パートタイム)	0	0	0	0	千円
総経費(a + b)	96,967	99,955	107,281	129,091	千円

(4) 年度ごとの推移(【主な活動の実績(※上記(2)①)】と【総経費の内訳】)



<p>主な活動に係る変更点(※上記(2)①)</p> <p>R4年度⇒R5年度</p>	<p>空き店舗対策として、空き店舗出店促進事業補助金の件数を増加し、出店を促した。</p>	<p>主な活動に係る変更点(※上記(2)①)</p> <p>R5年度⇒R6年度</p>	<p>商店街にぎわいづくり事業補助金において、集客力向上モデル事業での申請が19件中2件あり、コロナが明けて新しい事業に取り組む団体が増えてきた。</p>
<p>年度ごとの推移の分析(【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等)</p>	<p>令和4年度は、商店街にぎわいづくり事業補助金の実施支援と併せて、物価高騰対策として、商店街街路灯等電気料金等補助金の補助率のかさ上げ、商店街プレミアム商品券事業補助金を臨時で行ったため、経費が増加した。令和5年度も、商店街にぎわいづくり事業補助金の実施支援に加え、物価高騰対策として、昨年度同様に商店街街路灯等電気料金等補助金の補助率のかさ上げと、昨年度好評だった商店街プレミアム商品券事業補助金の補助上限を引き上げ、事業実施を支援した。商店街プレミアム商品券は昨年よりも規模を拡大した商店街があったため、経費が増加した。令和6年度も、過去2年と同様に、商店街にぎわいづくり事業補助金の実施支援、商店街街路灯等電気料金等補助金の補助率のかさ上げ、商店街プレミアム商品券事業補助金の実施支援を行った。内訳は例年並である。</p>		
<p>今後の事業の方向性</p>	<p>イベントへの補助金や、電気代補助、施設改修補助は商店街団体の運営にも関わる補助のため存続していく。新たな取り組みについては、商店街や事業主の活動意欲が湧くように、毎年検討を行っていく。</p>		

令和7年度 事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	8	項	1	目	2	説明資料	41	項目番号	3(1)
事務事業名	まちなか活性化事業								所管部課名	文化スポーツ観光部 商業振興課		

(1) 事務事業の概要

実施分類	補助金等	財源構成	市単	受益者負担	あり	事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令							
実施計画	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興				分野別計画	
	中柱	ルートミュージアムのさらなる強化					
	小柱	⑤個性ある商店街への支援					
目標	プロスポーツチームのホームタウンやルートミュージアムサテライト、歴史や文化等を活用し、商店街が行う各地域の特色を生かした、観光、集客等につながる活性化策を支援し、まちなかのにぎわいの創出を図る。また、再開発や企業進出等の活性化の芽を商業振興につなげる。						
目標達成に必要なこと	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特色を商店街と共有し、それを活かしたにぎわいの創造。 ・拠点市街地での商業施設・ホテルなどの設置に対する支援制度の継続。 						
具体的な事業内容	<ul style="list-style-type: none"> (1) 商店街との連携、支援(横須賀市等が行うイベントとの連携や、商店街実施事業への補助金による支援など) (2) 民間の力で行われるまちのにぎわいづくり事業との連携、支援を行う。また、他都市等の市街地活性化施策を研究し、まちなかの活性化を図る。 (3) 拠点市街地でのホテル・商業施設の設置を促進するための支援制度の周知を行う。 						

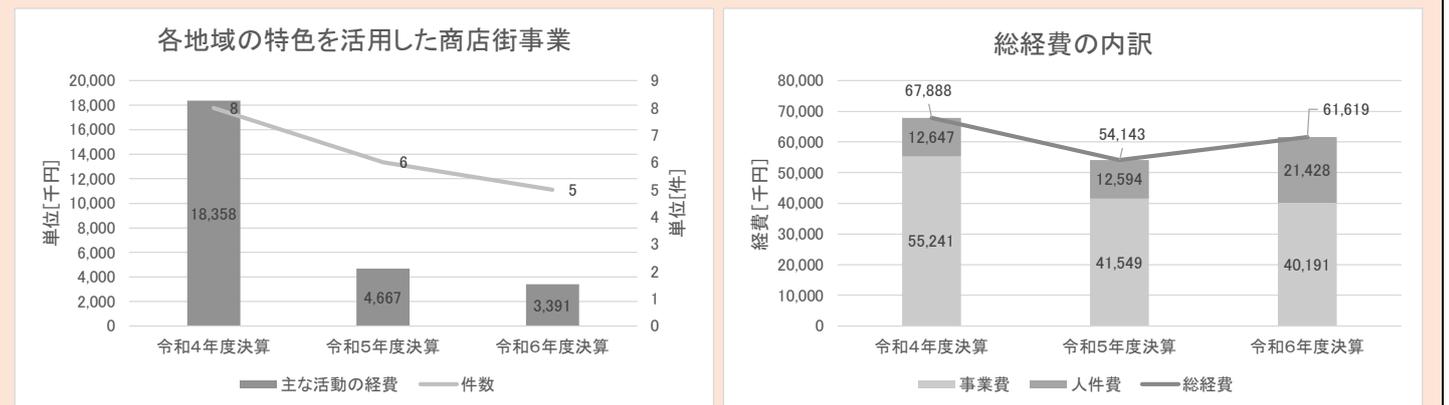
(2) 本事務事業における主な活動の実績

主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った 重要な項目1つ)	活動(指標)名	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位
① 各地域の特色を活用した商店街事業	件数	8	6	5	件
その他の活動実績	活動(指標)名	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位
② 旧三笠駐車場用地ホテル施設誘致にかかる奨励金	件数	1	1	1	件
③					

(3) 1年間の本事業執行にかかる経営資源(人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります)

区分	令和4年度決算	令和5年度決算	令和6年度決算	令和6年度予算	単位
a 事業費(予算現額・支出済額)	55,241	41,549	40,191	49,072	千円
主な活動の経費(※上記(2)①)	18,358	4,667	3,391	12,000	千円
その他の活動経費(※上記(2)①以外の経費)	36,883	36,882	36,800	37,072	千円
b 人件費	12,647	12,594	21,428	21,208	千円
正規職員	1.5	1.5	2.5	2.5	人
再任用職員(短時間を含む)	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員(フルタイム、パートタイム)	0	0	0	0	千円
総経費(a + b)	67,888	54,143	61,619	70,280	千円

(4) 年度ごとの推移(【主な活動の実績(※上記(2)①)】と【総経費の内訳】)



<p>主な活動に係る変更点(※上記(2)①)</p> <p>R4年度⇒R5年度</p>	<p>コロナ反転攻勢とまちの賑わいを復活させるため、また、各地域へ継続した取り組みを促すため、補助を1/2→2/3に拡充し、支援を行った。</p>	<p>主な活動に係る変更点(※上記(2)①)</p> <p>R5年度⇒R6年度</p>	<p>商店会員減少による資金不足や人手不足により、各地域で事業規模を縮小する傾向にあるが、事業は継続しており近隣住民から好評を得ている。</p>
<p>年度ごとの推移の分析(【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等)</p>	<p>令和4年度は、事業名を「中心市街地活性化事業」から「まちなか活性化事業」に変更し、中心市街地だけでなく、市内各所の市街地のにぎわいをより促進するため、横浜F・マリノス練習場のオープンや大河ドラマなどを契機とした、各地域のスポーツや歴史等を活用した事業への商店街補助も拡充・新設した。施設整備のハード整備があったため、経費が増額していた。令和5年度と令和6年度は、各地域で継続してイベント事業等の支援を行ったが、施設整備がなかったため、件数と決算額が減少している。</p>		
<p>今後の事業の方向性</p>	<p>市内各所の市街地のにぎわいの促進を継続していく。新たな取り組みについては、商店街や事業主の活動意欲が湧くように、毎年検討を行っていく。</p>		

令和7年度 事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	8	項	1	目	5	説明資料	44	項目番号	2(1)
事務事業名	観光振興総務費								所管部課名	文化スポーツ観光部 観光課		

(1) 事務事業の概要

実施分類	部分委託	財源構成	国・県	受益者負担	事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務					
根拠法令						
実施計画	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興				分野別計画
	中柱	周遊と消費の促進				
	小柱					
目標	観光産業を主要産業へ成長させることにより、地域経済の活性化や雇用の増加を図り、市民や市内企業の収入を増やすとともに、市外からの投資も誘引させる。					
目標達成に必要なこと	<ul style="list-style-type: none"> 本市の自然や日本遺産などの歴史と、音楽・スポーツ・エンターテインメントを融合させ、相乗効果により発信力を高め、他地域と差別化を図る。 それにより、これまで横須賀に目を向けることが少なかった客層を誘客し、都市として「楽しそう」「面白そう」「わくわくするイメージ」を発信する。 					
具体的な事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 観光施策の実効性の確保のため、観光振興推進委員会を開催する。 新たなお土産の開発・支援(おみやげコンテストの入賞作品のPRなど) 観光客調査を通じて、観光客数や観光動態の状況確認を行い、今後に向けた観光施策の基礎資料とする。 海洋都市を目指し、マリンレジャー関連事業を実施し、普及促進を行う 					

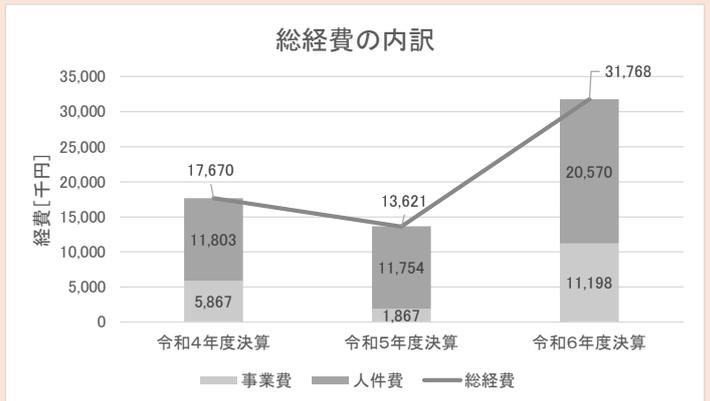
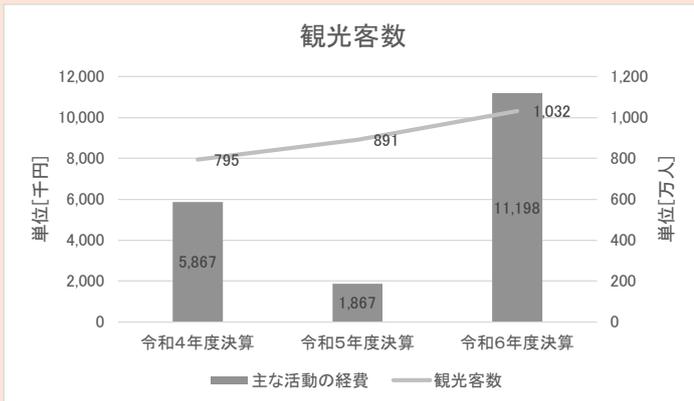
(2) 本事務事業における主な活動の実績

主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った 重要な項目1つ)	活動(指標)名	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位
① 観光客数	観光客数	795	891	1,032	万人
その他の活動実績	活動(指標)名	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位
② 観光消費額	観光消費額	379	438	558	億円
③					

(3) 1年間の本事業執行にかかる経営資源(人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります)

区分	令和4年度決算	令和5年度決算	令和6年度決算	令和6年度予算	単位
a 事業費(予算現額・支出済額)	5,867	1,867	11,198	11,969	千円
主な活動の経費(※上記(2)①)	5,867	1,867	11,198	11,969	千円
その他の活動経費(※上記(2)①以外の経費)	0	0	0	0	千円
b 人件費	11,803	11,754	20,570	20,359	千円
正規職員	1.4	1.4	2.4	2.4	人
再任用職員(短時間を含む)	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員(フルタイム、パートタイム)	0	0	0	0	千円
総経費(a + b)	17,670	13,621	31,768	32,328	千円

(4) 年度ごとの推移(【主な活動の実績(※上記(2)①)】と【総経費の内訳】)



主な活動に係る変更点(※上記(2)①) R4年度⇒R5年度	令和3年度及び4年度の2か年実施した「おみやげアイデアコンテスト」について、令和5年度はこれまでの入賞作品のPR等の支援に移行したことにより支出が減となった。	主な活動に係る変更点(※上記(2)①) R5年度⇒R6年度	令和7年度の観光立市推進基本計画及びアクションプランの改定に向けた調査業務を実施したことにより、令和6年度は事業費及び総経費が増となった。
年度ごとの推移の分析(【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等)	<p>令和5年度は、「おみやげアイデアコンテスト」は実施せず、これまでの入賞作品のPR等の支援に移行したことにより支出が大幅に減となった(▲4,150千円)。例年実施している観光施策の基礎データとなる「観光客入込調査」を年4回実施した(385千円)ほか、新たに観光客の消費額を正確に把握するため「観光客消費額アンケート調査」を年4回実施した(32千円)。</p> <p>令和6年度は、前年同様「おみやげアイデアコンテスト」の入賞作品のPRのため、受賞した商品の販売会などを開催した(668千円)。また、例年実施している観光施策の基礎データとなる「観光客入込調査」の年4回実施(387千円)及び、観光客の消費額を正確に把握するための「観光客消費額アンケート調査」を年4回実施(530千円)したことに併せ、令和7年度の横須賀市観光立市推進基本計画及びアクションプランの改定に向けた調査業務を実施(9,272千円)したことにより、人工も必要となり、事業費及び人件費ともに増となった。</p> <p>様々な活動や取組の実績により、コロナで落ち込んでいた観光客数も年々増加傾向にあり、令和6年には観光立市推進基本計画の目標である1,000万人を超える1,032万人を記録し、過去最高の入込観光客数となった。</p>		
今後の事業の方向性	今後も、観光産業を主要産業へ成長させることにより地域経済の活性化を図り、そのために必要な事業を継続して実施するとともに、国や県などの補助金の活用や、民間事業者の人材、ノウハウ、資金などを活用し、コラボレーションをすることで、より魅力的で話題性のある事業を展開していく。		

令和7年度 事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	8	項	1	目	5	説明資料	45	項目番号	3(1)
--------	----	------	---	---	---	---	---	---	------	----	------	------

事務事業名	集客プロモーション事業	所管部課名	文化スポーツ観光部 観光課
-------	-------------	-------	------------------

(1) 事務事業の概要

実施分類	その他	財源構成	国・県	受益者負担	なし	事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令							
実施計画	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興				分野別計画	観光立市推進基本計画
	中柱	周遊と消費の促進					観光立市推進アクションプラン
	小柱						
目標	近隣の市町と比べて、交通の便を含め住環境が良いにもかかわらず人口減少が進んでいる状況である。その原因の一つとして、実際の環境と市の持たれているイメージとの乖離が大きいことが要因であると、これまでの様々なアンケート結果にも出ているところである。こうしたイメージを払拭し、横須賀に良いイメージを持ってもらうことで現状を打破していく。						
目標達成に必要なこと	待ちの姿勢では、民間企業が本市に興味を持ったり、投資や事業を行いたいと思ってくれることはないため、行政自身が常に新しい試みにチャレンジして起点を作り、その展開を発信し続けなければならない。様々な分野で最先端の技術を取り入れたチャレンジを続け、発信することで本市の「ワクワクできる街、楽しそうな街、チャレンジできる街、チャレンジしている街」としてのイメージを定着させていく。						
具体的な事業内容	(1)ルートミュージアムの推進による市内周遊の促進(周遊満足度の向上、ICTの活用、移動手段の充実など) (2)サブカルチャーを活用した新しい層の取り込み (3)スポーツを活用した集客 (4)情報発信(SNSや観光情報サイト)						

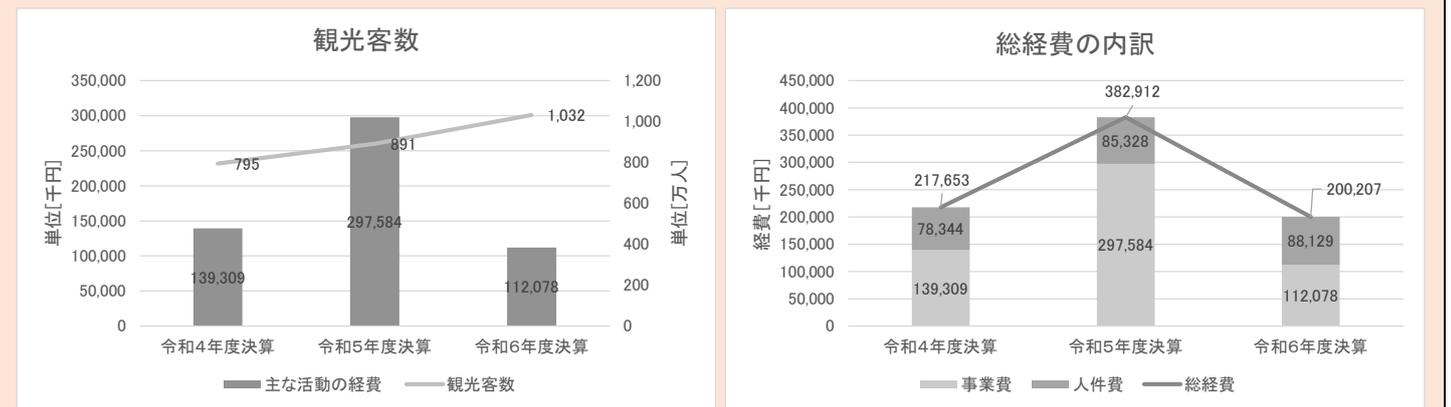
(2) 本事務事業における主な活動の実績

主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った 重要な項目1つ)	活動(指標)名	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位
① 観光客数	観光客数	795	891	1,032	万人
その他の活動実績	活動(指標)名	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位
② 観光消費額	観光消費額	379	438	558	億円
③					

(3) 1年間の本事業執行にかかる経営資源(人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります)

区分	令和4年度決算	令和5年度決算	令和6年度決算	令和6年度予算	単位
a 事業費(予算現額・支出済額)	139,309	297,584	112,078	136,148	千円
主な活動の経費(※上記(2)①)	139,309	297,584	112,078	136,148	千円
その他の活動経費(※上記(2)①以外の経費)	0	0	0	0	千円
b 人件費	78,344	85,328	88,129	87,512	千円
正規職員	8.0	9.0	9.0	9.0	人
再任用職員(短時間を含む)	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員(フルタイム、パートタイム)	10,896	9,764	10,990	11,165	千円
総経費(a + b)	217,653	382,912	200,207	223,660	千円

(4) 年度ごとの推移(【主な活動の実績(※上記(2)①)】と【総経費の内訳】)



<p>主な活動に係る変更点(※上記(2)①)</p> <p>R4年度⇒R5年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜間の賑わい等の取り組みに補助金を交付(新) ・二次交通等の取り組みに対して奨励金を交付(新) ・メタバースの取組みを実施(新) ・三笠循環バス事業の実施(新) ・MEGURU PROJECTは、規模を拡大して実施(拡) 	<p>主な活動に係る変更点(※上記(2)①)</p> <p>R5年度⇒R6年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルマップを活用した周遊イベントの実施(新) ・夜間の消費拡大を目的とした飲食キャンペーンの実施(新) ・スカリン着ぐるみ製作(新) ・富岡どんとまつりに出店(隔年開催) ・MEGURU PROJECT及び夜間の賑わい等の取り組み補助の見直しによる減
<p>年度ごとの推移の分析(【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・メタバースの取組みにおいて、令和5年度は事業立ち上げ時の年度にあたりかつ、国の交付金を活用した都合上、事業経費が約50,000千円ほどとなったが、令和6年度は事業の継続に係る部分のみの経費となったため、40,000千円近く減額されている。活動実績としては、令和6年度末までにおいて、制作したワールドの訪問数が約20万、スカジャンの配布データダウンロード数が約5万件となっている。 ・令和5年度から、三笠循環バス事業に係る指定寄附(一般財団法人シティサポートよこすか)により、三笠循環バスの認知度向上及び利用者数増加のための取組みを実施、令和6年度実績が過去最高の42,922人となった。 ・MEGURU PROJECT及び夜間の賑わい等の取り組み補助の見直しによる減。
<p>今後の事業の方向性</p>	<p>引き続き新たな観光の核となる拠点の創出、地域資源を線でつなぎ面で展開するしくみづくり、地域資源と音楽・スポーツ・エンターテインメントとの融合、消費につながる魅力的なモノ・コトの創出、民間事業者等とのコラボレーションによる新たな魅力発信、地域の特性やインパクトのあるイベントを活用した効果的なプロモーションの実施を行うことで、ルートミュージアムを核とした観光立市を実現する。</p>

令和7年度 事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	8	項	1	目	5	説明資料	48	項目番号	3(2)
事務事業名	セールスプロモーション事業								所管部課名	文化スポーツ観光部 観光課		

(1) 事務事業の概要

実施分類	その他	財源構成	市単	受益者負担	なし	事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令							
実施計画	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興				分野別計画	観光立市推進基本計画
	中柱	周遊と消費の促進					観光立市推進アクションプラン
	小柱						
目標	近隣の市町と比べて、交通の便を含め住環境が良いにもかかわらず人口減少が進んでいる状況である。その原因の一つとして、実際の環境と市の持たれているイメージとの乖離が大きいことが要因であると、これまでの様々なアンケート結果にも出ているところである。こうしたイメージを払拭し、横須賀に良いイメージを持ってもらうことで現状を打破していく。						
目標達成に必要なこと	待ちの姿勢では、民間企業が本市に興味を持ったり、投資や事業を行いたいと思ってくれることはないため、行政自身が常に新しい試みにチャレンジして起点を作り、その展開を発信し続けなければならない。様々な分野で最先端の技術を取り入れたチャレンジを続け、発信することで本市の「ワクワクできる街、楽しそうな街、チャレンジできる街、チャレンジしている街」としてのイメージを定着させていく。						
具体的な事業内容	(1) ツアーセールス: 団体客誘致(バスツアー等)のためのセールス活動 (2) メディアセールス: テレビ、新聞、雑誌、WEB等のメディアでの露出を図るためのセールス活動						

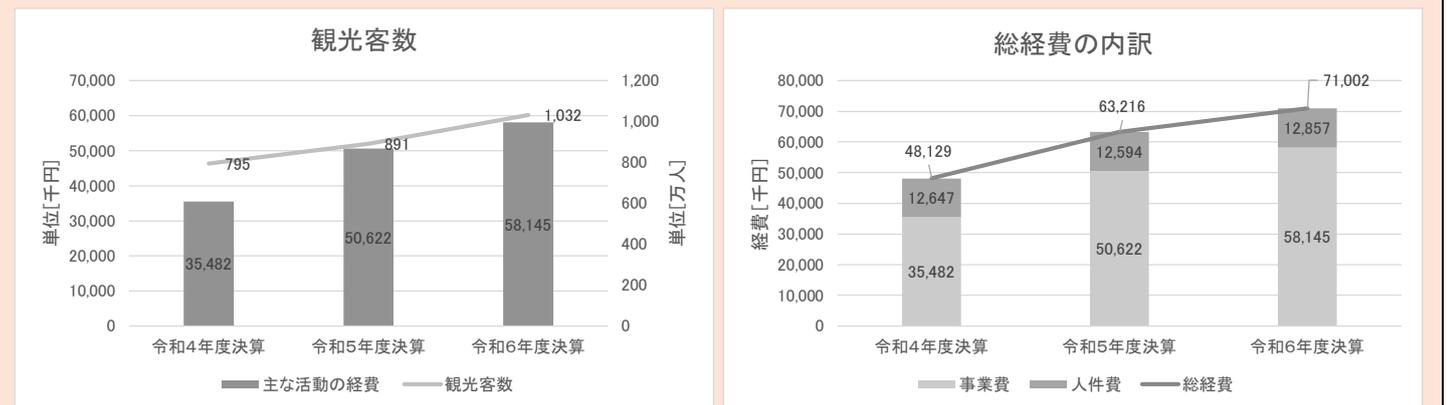
(2) 本事務事業における主な活動の実績

主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った 重要な項目1つ)	活動(指標)名	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位
① 観光客数	観光客数	795	891	1,032	万人
その他の活動実績	活動(指標)名	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位
② 観光客消費額	観光客消費額	379	438	558	億円
③					

(3) 1年間の本事業執行にかかる経営資源(人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります)

区分	令和4年度決算	令和5年度決算	令和6年度決算	令和6年度予算	単位
a 事業費(予算現額・支出済額)	35,482	50,622	58,145	78,326	千円
主な活動の経費(※上記(2)①)	35,482	50,622	58,145	78,326	千円
その他の活動経費(※上記(2)①以外の経費)	0	0	0	0	千円
b 人件費	12,647	12,594	12,857	12,725	千円
正規職員	1.5	1.5	1.5	1.5	人
再任用職員(短時間を含む)	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員(フルタイム、パートタイム)	0	0	0	0	千円
総経費(a + b)	48,129	63,216	71,002	91,051	千円

(4) 年度ごとの推移(【主な活動の実績(※上記(2)①)】と【総経費の内訳】)



主な活動に係る変更点(※上記(2)①) R4年度⇒R5年度	令和4年度までは主に横須賀集客促進・魅力発信実行委員会にてセールスプロモーション事業を実施していたが、令和5年度はツアーセールスやメディアセールス業務の一部を観光協会に委託して実施した。	主な活動に係る変更点(※上記(2)①) R5年度⇒R6年度	令和6年度は、令和4年度以前と同じく、横須賀集客促進・魅力発信実行委員会にて観光協会への委託により、セールスプロモーション事業を実施した。
年度ごとの推移の分析(【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等)	<p>【ツアーセールス】市内を来訪するバスツアーへの助成事業について、年々実施件数が増加しており、市内来訪のツアー造成や観光PR等に繋がっている。(令和4年度:517件 18,746千円、令和5年度:641件 23,960千円、令和6年度:631件 23,820千円)</p> <p>【メディアセールス】令和5年度より体制強化のため観光協会の人員を0.5人増。また、観光協会からの提案により、令和6年度から市内のロケ地拡大や手厚い撮影支援の実施による撮影件数の増等を目指すロケーションサポート事業をスタートさせた。令和6年度は企業版ふるさと納税を活用した番組誘致を行った(9,400千円)</p>		
今後の事業の方向性	引き続き新たな観光の核となる拠点の創出、地域資源を線をつなぎ面で展開するしくみづくり、地域資源と音楽・スポーツ・エンターテインメントとの融合、消費につながる魅力的なモノ・コトの創出、民間事業者等とのコラボレーションによる新たな魅力発信、地域の特性やインパクトのあるイベントを活用した効果的なプロモーションの実施を行うことで、ルートミュージアムを核とした観光立市を実現する。		

令和7年度 事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	8	項	1	目	5	説明資料	53	項目番号	7(1)
事務事業名	大規模スポーツ大会等誘致事業 (ウインドサーフィンワールドカップの誘致等)								所管部課名	文化スポーツ観光部 企画課		

(1) 事務事業の概要

実施分類	その他	財源構成	その他	受益者負担	なし	事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令							
実施計画	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興				分野別計画	
	中柱	スポーツによるにぎわいの創出					
	小柱	②マリンスポーツ、マリンレジャーによるにぎわいづくり					
目標	ウインドサーフィンワールドカップの開催を契機に、まちに賑わいを創出し、「ウインドサーフィンのまち」としての地域ブランド力の向上を図り、地域の活性化を目指す。						
目標達成に必要なこと	<ul style="list-style-type: none"> ワールドカップを継続的に開催するために、民間企業など外部団体からの支援、協力をしていただけるような大会づくりを行う 目指すまちづくり、賑わいの創出に地域住民が率先して参加できるような環境づくりを行う 						
具体的な事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 津久井浜海岸でのウインドサーフィンワールドカップの継続開催 全日本ウインドサーフィンフリースタイル大会およびウインドサーフィンドリームカップの誘致 iQフォイル強化練習会の誘致 ジュニアトップアスリート発掘・育成のためのウインドサーフィンアカデミーの実施 ワークプレイスとマリンスポーツが体験できるワーケーション環境の整備 						

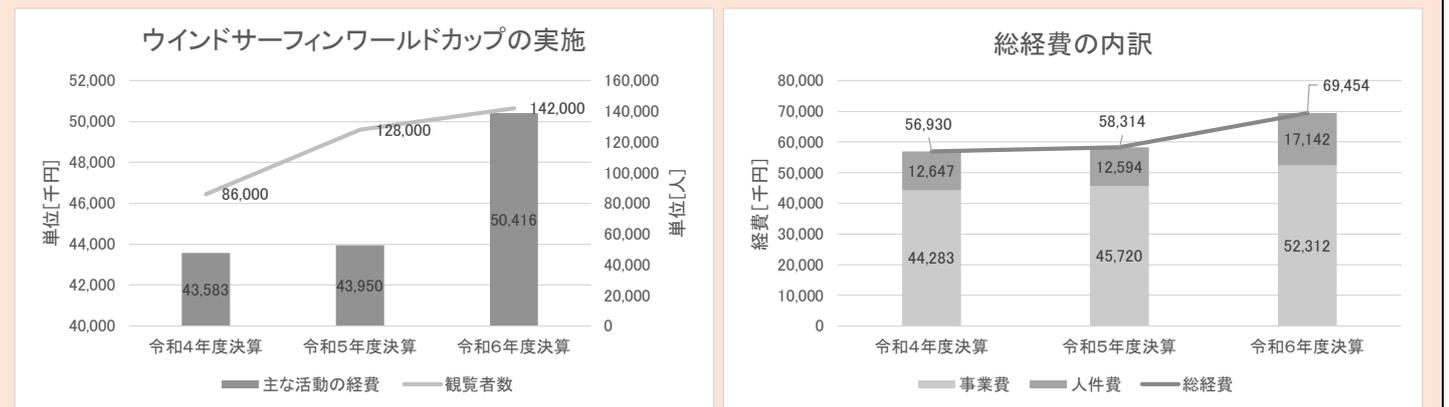
(2) 本事務事業における主な活動の実績

主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った 重要な項目1つ)	活動(指標)名	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位
① ウインドサーフィンワールドカップの実施	観覧者数	86,000	128,000	142,000	人
その他の活動実績	活動(指標)名	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位
② 全国大会や練習会の誘致	誘致件数	3	3	3	回
③ ウインドサーフィンアカデミーの実施	受講者数	4	6	8	人

(3) 1年間の本事業執行にかかる経営資源(人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります)

区分	令和4年度決算	令和5年度決算	令和6年度決算	令和6年度予算	単位
a 事業費(予算現額・支出済額)	44,283	45,720	52,312	52,525	千円
主な活動の経費(※上記(2)①)	43,583	43,950	50,416	50,416	千円
その他の活動経費(※上記(2)①以外の経費)	700	1,770	1,896	2,109	千円
b 人件費	12,647	12,594	17,142	16,966	千円
正規職員	1.5	1.5	2.0	2.0	人
再任用職員(短時間を含む)	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員(フルタイム、パートタイム)	0	0	0	0	千円
総経費(a + b)	56,930	58,314	69,454	69,491	千円

(4) 年度ごとの推移(【主な活動の実績(※上記(2)①)】と【総経費の内訳】)



主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R4年度⇒R5年度	ワールドカップに関して、多種多様なキッチンカーや地元特産品の販売ブースの設置、SDGsの一環として、リサイクルTシャツの制作など、競技以外にも楽しめるコンテンツを充実させることで、大会の魅力を高めた。	主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R5年度⇒R6年度	<ul style="list-style-type: none"> ・附帯イベントの拡充(在日フランス商工会議所とのタイアップ、全国の地方物産展ほか) ・イベントゴミの排出ゼロを目指し再資源化を図る活動 ・toto助成金の補助対象経費の見直し ・ふるさと納税による資金調達スキームの確立
年度ごとの推移の分析 (【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度は、オンライン配信の環境を整備してワールドカップを開催することで、従前よりも多くの人にウインドサーフィンと横須賀の魅力を実感することができた。 ・令和5年度は、オンライン配信を継続するとともに、youtube等のSNSを中心としたデジタルプロモーションを強化することで、大会観覧者数を大きく伸ばした。(来場者数32,000人、動画観覧数96,000人) ・令和6年度は、従来の世界トッププロ選手によるスラロームレースのほか、民間事業者等と連携した附帯イベントを拡充させ、ウインドサーフィンの愛好者以外にも興味関心を惹きつける集客コンテンツを展開し、過去大会最高となる観覧者数を記録した(来場者数33,000人、観覧者数109,000人)。また、toto助成金の補助対象経費の見直しやふるさと納税の積極活用により、新たな財源確保を図った。 		
今後の事業の方向性	ワールドカップに関しては、2025年大会以降も継続開催できるよう、資金調達のスキームを確立させ、持続可能な大会運営を図っていく。その他の事業に関しては、既存の事業を継続実施し、ワーケーション施設の拡充を図るなど、さらなる交流人口の増加、民間企業による投資促進などを旨とする。		

令和7年度 事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	8	項	1	目	5	説明資料	54	項目番号	7(1)
事務事業名	大規模スポーツ大会等誘致事業 (BMXフリースタイルジャパンカップの誘致等)								所管部課名	文化スポーツ観光部 企画課		

(1) 事務事業の概要

実施分類	補助金等	財源構成	国・県	受益者負担	なし	事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令							
実施計画	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興				分野別計画	観光立市推進基本計画
	中柱	スポーツによるにぎわいの創出					横須賀市スポーツ推進計画
	小柱	③アーバンスポーツ、eスポーツによるにぎわいづくり					
目標	BMXフリースタイルジャパンカップの誘致・開催を契機に、アーバンスポーツの普及・振興および地域活性化を図る。 また、アーバンスポーツを文化として根付かせ、アーバンスポーツの聖地として若者が集うまちとなり、本市の新たな魅力を創出・発信していく。						
目標達成に必要なこと	<ul style="list-style-type: none"> ・(一社)全日本フリースタイルBMX連盟や関連団体・企業との連携 ・地元住民や子供を中心とした普及活動を実施し、「アーバンスポーツのまち横須賀」の認知度向上 ・BMXフリースタイルジャパンカップを継続開催するための国や県の補助金・大会開催パートナーの獲得、さらにはアーバンスポーツツーリズムへの展開を行う 						
具体的な事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・BMXフリースタイルジャパンカップの誘致・開催 ・アーバンスポーツツーリズムのコンテンツ創出に向けた取り組み(普及事業)の実施(学校訪問、体験会、デモンストレーション等) ・うみかぜ公園BMXパークのオープンおよび新たな施設整備に向けた調整と財源を含めた検討 						

(2) 本事務事業における主な活動の実績

主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った 重要な項目1つ)	活動(指標)名	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位
① BMXフリースタイルジャパンカップの開催	来場者数(延べ人数)	9,700	20,100	9,100	人
その他の活動実績	活動(指標)名	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位
② BMXを中心としたアーバンスポーツ普及事業の実施	参加者数	3,392	2,624	10,767	人
③ うみかぜ公園BMXパークのオープン	利用者数	576	1,507	1,090	人

(3) 1年間の本事業執行にかかる経営資源(人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります)

区分	令和4年度決算	令和5年度決算	令和6年度決算	令和6年度予算	単位
a 事業費(予算現額・支出済額)	47,748	39,979	48,217	54,738	千円
主な活動の経費(※上記(2)①)	30,952	30,000	30,000	30,000	千円
その他の活動経費(※上記(2)①以外の経費)	16,796	9,979	18,217	24,738	千円
b 人件費	4,216	12,594	21,428	21,208	千円
正規職員	0.5	1.5	2.5	2.5	人
再任用職員(短時間を含む)	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員(フルタイム、パートタイム)	0	0	0	0	千円
総経費(a + b)	51,964	52,573	69,645	75,946	千円

(4) 年度ごとの推移(【主な活動の実績(※上記(2)①)】と【総経費の内訳】)



<p>主な活動に係る変更点(※上記(2)①)</p> <p>R4年度⇒R5年度</p>	<p>令和4年度に引き続き実施した。国際大会となり大会の規模が拡大した。</p>	<p>主な活動に係る変更点(※上記(2)①)</p> <p>R5年度⇒R6年度</p>	<p>令和5年度に引き続き実施した。雨天等による中止に備え、大会開催期間を3日間から4日間に増やした。</p>
<p>年度ごとの推移の分析(【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等)</p>	<p>令和4年度はBMXフリースタイルジャパンカップを初開催し、令和5年度には、さらに国際大会として開催されたことや、東京オリンピックに出場した日本人選手の本大会出場などの注目度、および2年連続での開催による地元の関心等の向上により、前年度を大きく上回る来場者数となった。令和6年度も引き続き国際大会として開催したが、雨天等によりプログラムの一部が中断・中止となったことから来場者数が伸びなかった。一方で、パルクール大会への奨励金交付やBMXスクールの開催、アーバンスポーツの啓発など、普及事業において新たな取り組みを行ったため、事業費及び人員が増加した。</p>		
<p>今後の事業の方向性</p>	<p>引き続きジャパンカップを誘致・開催するとともに、BMXを中心としたアーバンスポーツの普及事業を継続的に実施することで、アーバンスポーツを通じた地域活性化を図り、交流人口の増加や本市の魅力発信につなげ、「アーバンスポーツの聖地」を目指す。</p>		

令和7年度 事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	8	項	1	目	5	説明資料	54	項目番号	7(2)
--------	----	------	---	---	---	---	---	---	------	----	------	------

事務事業名	国際会議等誘致事業	所管部課名	文化スポーツ観光部 企画課
-------	-----------	-------	------------------

(1) 事務事業の概要

実施分類	補助金等	財源構成	市単	受益者負担	なし	事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令							
実施計画	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興				分野別計画	観光立市推進基本計画
	中柱	周遊と消費の促進					
	小柱	②宿泊者等の増加					
目標	学会・スポーツ大会・スポーツ合宿を誘致し、来訪者の宿泊、飲食、観光等による経済効果の増加や、市のブランドイメージの向上と発信を図る。						
目標達成に必要なこと	学会の開催やスポーツ合宿について働きかけを行うとともに、運営面等を積極的に支援する。						
具体的な事業内容	(1)一般社団法人横須賀市観光協会への補助金交付、連携および支援 (2)会場の優先予約						

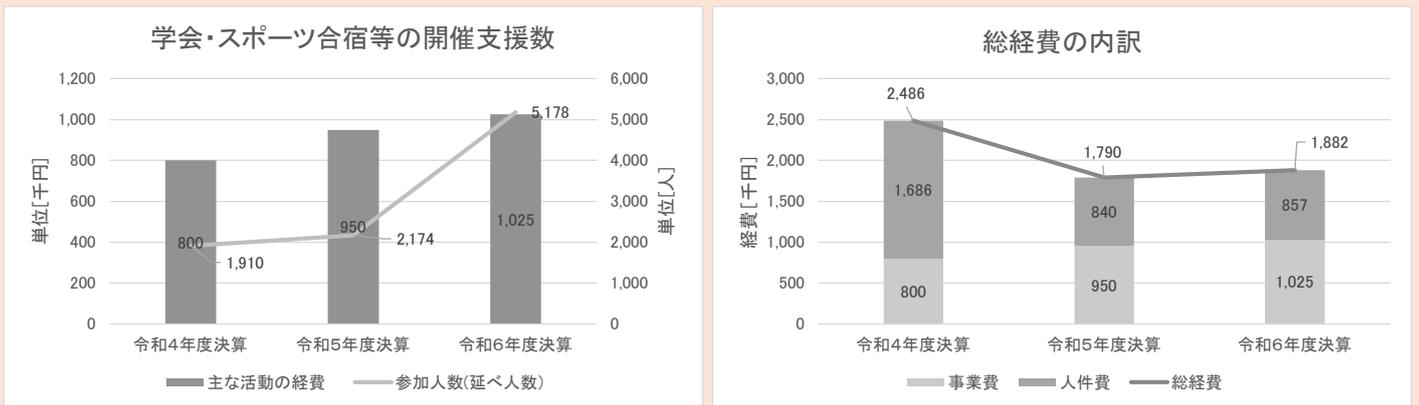
(2) 本事務事業における主な活動の実績

主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った重要な項目1つ)	活動(指標)名	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位
① 学会・スポーツ合宿等の開催支援数	参加人数(延べ人数)	1,910	2,174	5,178	人
その他の活動実績	活動(指標)名	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位
② 学会・スポーツ合宿等の開催支援額	補助金交付額	800	950	1,025	千円
③					

(3) 1年間の本事業執行にかかる経営資源(人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります)

区分	令和4年度決算	令和5年度決算	令和6年度決算	令和6年度予算	単位
a 事業費(予算現額・支出済額)	800	950	1,025	2,800	千円
主な活動の経費(※上記(2)①)	800	950	1,025	2,800	千円
その他の活動経費(※上記(2)①以外の経費)					千円
b 人件費	1,686	840	857	848	千円
正規職員	0.2	0.1	0.1	0.1	人
再任用職員(短時間を含む)	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員(フルタイム、パートタイム)	0	0	0	0	千円
総経費(a + b)	2,486	1,790	1,882	3,648	千円

(4) 年度ごとの推移(【主な活動の実績(※上記(2)①)】と【総経費の内訳】)



主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R4年度⇒R5年度	団体等との事前相談から補助金の申請・交付まで窓口を一本化するため、補助金交付業務も一般社団法人横須賀市観光協会へ引き継いだ。それにより、これまでの要綱を廃止し、新たに要領を制定した。	主な活動に係る変更点 (※上記(2)①) R5年度⇒R6年度	特になし
年度ごとの推移の分析 (【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等)	令和4年度は、コロナの影響をほとんど受けず、補助金交付額及び学会等参加人数が増加したが、団体への支援業務を一般社団法人横須賀市観光協会に移管したことに伴う人件費の削減により、総経費が削減となっている。 令和5年度は、コロナが5類感染症に移行したことにより参加人数の多い学会およびスポーツ大会の開催が増え参加人数が増加したが、補助金交付業務も一般社団法人横須賀市観光協会に移管したことに伴う人件費の削減により、総経費が削減となっている。 令和6年度は、参加人数の多いスポーツ合宿の増加や観光協会の支援により再来訪となる大会・合宿があり活動実績が増え、総経費も微増となった。		
今後の事業の方向性	来訪者の平均消費単価の増加、宿泊者数の増加に向けて、観光周遊および宿泊や食事の手配代行、補助金支出業務など観光協会による団体へのさらなる支援を働きかけていく。さらに本補助金をより活用しやすい制度とするために、補助対象経費の範囲の拡大など要領の改正を行っていく。		

令和7年度 事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	11	項	9	目	2	説明資料	60	項目番号	3(6)
事務事業名	少年期スポーツ障害予防対策事業								所管部課名	文化スポーツ観光部 スポーツ振興課		

(1) 事務事業の概要

実施分類	その他	財源構成	その他	受益者負担	なし	事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令	スポーツ基本法第14条						
実施計画	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興				分野別計画	横須賀市スポーツ推進計画
	中柱	スポーツによるにぎわいの創出					
	小柱	①プロスポーツチームとの連携					
目標	少年期のスポーツ障害を予防するためには、「怪我をしない体づくり」、「怪我をさせない環境づくり」が重要であり、これらを少年スポーツの現場に浸透させる。						
目標達成に必要なこと	本市の少年スポーツの現場における正しい知識の普及。						
具体的な事業内容	子どもたちが将来にわたってスポーツを楽しめる環境づくりの一環として、少年期におけるスポーツ障害予防対策を実施する。スポーツ整形の医師や本市で活動するプロスポーツチームなどの協力を得て、野球とサッカーの2競技を対象に、検診や予防トレーニングの講習などを実施する。 実施内容 1 医師による超音波検査 2 予防トレーニング講習 3 指導者向けの講話						

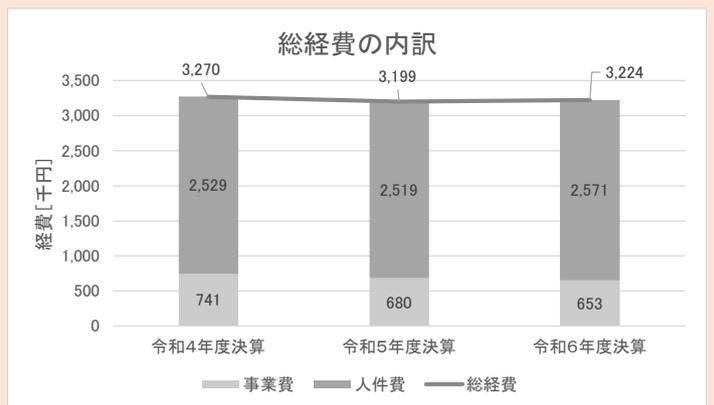
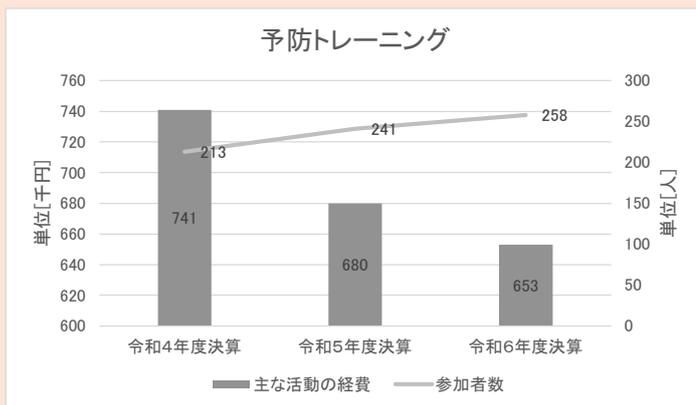
(2) 本事務事業における主な活動の実績

主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った 重要な項目1つ)	活動(指標)名	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位
① 予防トレーニング	参加者数	213	241	258	人
その他の活動実績	活動(指標)名	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位
②					
③					

(3) 1年間の本事業執行にかかる経営資源(人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります)

区分	令和4年度決算	令和5年度決算	令和6年度決算	令和6年度予算	単位
a 事業費(予算現額・支出済額)	741	680	653	871	千円
主な活動の経費(※上記(2)①)	741	680	653	871	千円
その他の活動経費(※上記(2)①以外の経費)	0	0	0	0	千円
b 人件費	2,529	2,519	2,571	2,545	千円
正規職員	0.3	0.3	0.3	0.3	人
再任用職員(短時間を含む)	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員(フルタイム、パートタイム)	0	0	0	0	千円
総経費(a + b)	3,270	3,199	3,224	3,416	千円

(4) 年度ごとの推移(【主な活動の実績(※上記(2)①)】と【総経費の内訳】)



<p>主な活動に係る変更点(※上記(2)①) R4年度⇒R5年度</p>	<p>令和5年度は野球、サッカーに加えソフトボールも対象種目として追加した。</p>	<p>主な活動に係る変更点(※上記(2)①) R5年度⇒R6年度</p>	<p>指導者向けの講話において、令和5年度は対象種目をサッカー及び野球・ソフトボールとしていたが、令和6年度は対象を全種目に拡大した。</p>
<p>年度ごとの推移の分析(【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等)</p>	<p>【総経費の内訳】 令和5年度まで指導者向けの講話を別日開催としていたが、令和6年度は検査・トレーニングと同日・同会場開催とすることで、運営の効率化及び経費の削減を図った。 【参加者数】 検診や講話の対象種目を年々、拡大してきたことから、参加者数が増加している。</p>		
<p>今後の事業の方向性</p>	<p>少年期にスポーツ障害に対する正しい知識を身につけてもらい、「怪我をしない体づくり」や、指導者も正しい知識を身につけることで、「怪我をさせない環境づくり」を横須賀市の少年スポーツの現場に浸透させるため継続して事業を行っていく。</p>		

令和7年度 事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	11	項	9	目	2	説明資料	61	項目番号	4(5)
事務事業名	社会体育団体等補助金(スポーツ選手育成強化事業補助金)								所管部課名	文化スポーツ観光部 スポーツ振興課		

(1) 事務事業の概要

実施分類	補助金等	財源構成	市単	受益者負担	なし	事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令	スポーツ基本法第34条						
実施計画	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興				分野別計画	横須賀市スポーツ推進計画
	中柱	スポーツによるにぎわいの創出					
	小柱	①プロスポーツチームとの連携					
目標	各種目選手の競技力向上。						
目標達成に必要なこと	選手強化事業に取り組むための支援をすること。						
具体的な事業内容	スポーツ協会では、選手等のための食生活やケガ予防等についての講習会・講演会の開催、傘下種目団体へ事業交付金・活動奨励費の交付のほか、選抜選手強化事業、特定競技強化事業を実施している。						

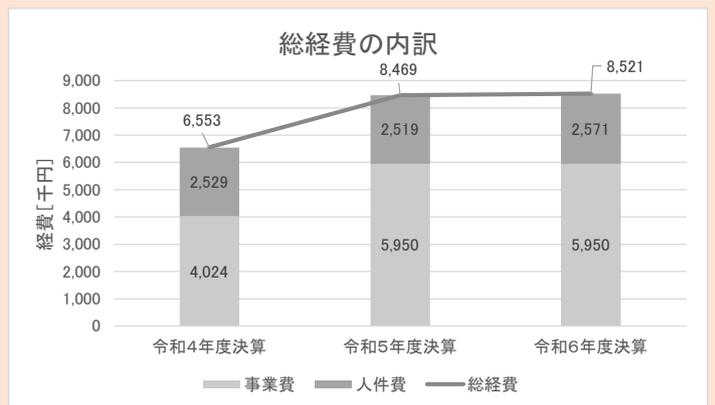
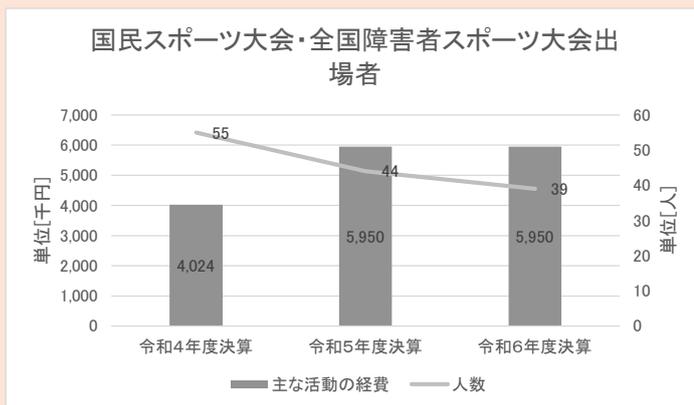
(2) 本事務事業における主な活動の実績

主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った 重要な項目1つ)	活動(指標)名	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位
① 国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会出場者	人数	55	44	39	人
その他の活動実績	活動(指標)名	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位
②					
③					

(3) 1年間の本事業執行にかかる経営資源(人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります)

区分	令和4年度決算	令和5年度決算	令和6年度決算	令和6年度予算	単位
a 事業費(予算現額・支出済額)	4,024	5,950	5,950	5,950	千円
主な活動の経費(※上記(2)①)	4,024	5,950	5,950	5,950	千円
その他の活動経費(※上記(2)①以外の経費)	0	0			千円
b 人件費	2,529	2,519	2,571	2,545	千円
正規職員	0.3	0.3	0.3	0.3	人
再任用職員(短時間を含む)	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員(フルタイム、パートタイム)	0	0	0	0	千円
総経費(a + b)	6,553	8,469	8,521	8,495	千円

(4) 年度ごとの推移(【主な活動の実績(※上記(2)①)】と【総経費の内訳】)



主な活動に係る変更点(※上記(2)①) R4年度⇒R5年度	新型コロナウイルス5類移行に伴い、選手育成強化事業活動が再開された。	主な活動に係る変更点(※上記(2)①) R5年度⇒R6年度	特になし
年度ごとの推移の分析(【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等)	令和5、6年度は概ね新型コロナウイルス感染症前の規模で実施することができ、講習会等の開催、国民スポーツ大会等の開催により激励費等が増加し、総経費が増となった。		
今後の事業の方向性	次期オリンピック・パラリンピックを見据え、引き続き継続していく。		

令和7年度 事務事業等の総点検

実施計画事業	会計	一般会計	款	11	項	9	目	2	説明資料	62	項目番号	5(1)
事務事業名	ホームタウンチーム活動推進事業								所管部課名	文化スポーツ観光部 スポーツ振興課		

(1) 事務事業の概要

実施分類	直営	財源構成	市単	受益者負担	なし	事業終了の見込	未定
分類	法令の規定がない、もしくは規定による制約が小さく、本市の判断により実施している業務						
根拠法令							
実施計画	大柱	歴史や文化・スポーツを生かしたにぎわいの再興				分り別計画	横須賀市スポーツ推進計画
	中柱	スポーツによるにぎわいの創出					
	小柱	①プロスポーツチームとの連携					
目標	本市を活動拠点とするプロスポーツチームのホームタウンとして様々な連携を行い、トップアスリートと子どもを中心とする市民とのふれあいの機会を創出することで、スポーツに対する関心を高め、本市のスポーツ振興を図る。						
目標達成に必要なこと	子どもたちがプロスポーツ選手と触れ合う機会を創出すること						
具体的な事業内容	横浜DeNAベイスターズファームチーム:選手が小学校へ訪問、コーチ等が幼稚園に訪問 横浜F・マリノス:コーチが小学校・幼稚園・保育園・こども園に訪問						

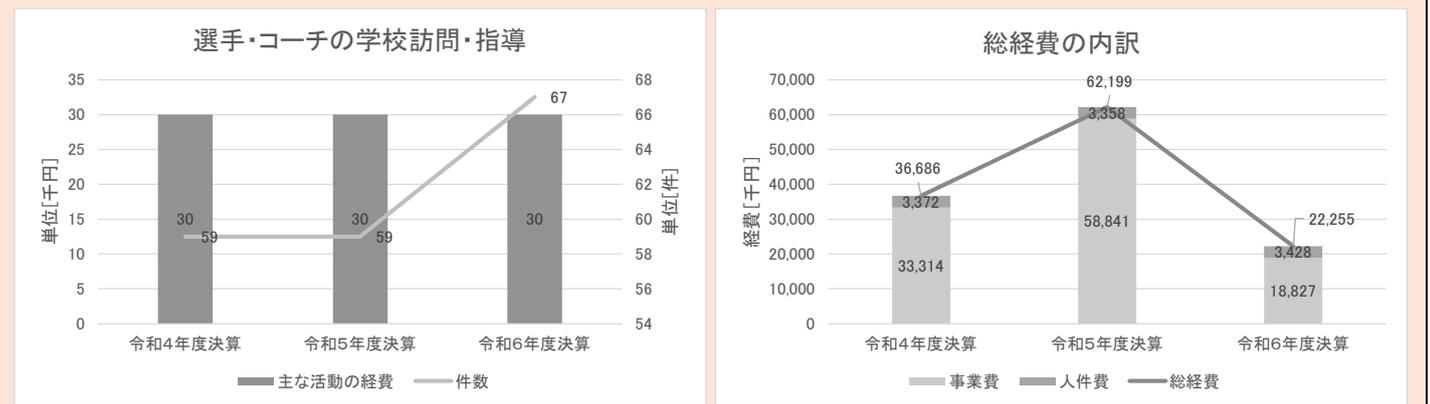
(2) 本事務事業における主な活動の実績

主な活動又は活動効果(目標を達成するために行った重要な項目1つ)	活動(指標)名	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位
① 選手・コーチの学校訪問・指導	件数	59	59	67	件
その他の活動実績	活動(指標)名	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位
② 横須賀市子ども招待デーのチラシ印刷・配布(ベイスターズ)	配布数	27,870	0	26,660	枚
③					

(3) 1年間の本事業執行にかかる経営資源(人件費は、想定人員数と平均給与で試算のため実際の決算額と異なります)

区分	令和4年度決算	令和5年度決算	令和6年度決算	令和6年度予算	単位
a 事業費(予算現額・支出済額)	33,314	58,841	18,827	39,027	千円
主な活動の経費(※上記(2)①)	30	30	30	30	千円
その他の活動経費(※上記(2)①以外の経費)	33,284	58,811	18,797	38,997	千円
b 人件費	3,372	3,358	3,428	3,393	千円
正規職員	0.4	0.4	0.4	0.4	人
再任用職員(短時間を含む)	0.0	0.0	0.0	0.0	人
会計年度任用職員(フルタイム、パートタイム)	0	0	0	0	千円
総経費(a + b)	36,686	62,199	22,255	42,420	千円

(4) 年度ごとの推移(【主な活動の実績(※上記(2)①)】と【総経費の内訳】)



主な活動に係る変更点(※上記(2)①) R4年度⇒R5年度	特になし	主な活動に係る変更点(※上記(2)①) R5年度⇒R6年度	特になし
年度ごとの推移の分析(【主な活動実績】と【総経費の内訳】の増減理由等)	<p>【主な活動実績】 (令和4年度→5年度)前年度と同程度の実施ができた。(ベイスターズ・マリノス) (令和5年度→6年度)希望する学校に可能な限り訪問できるよう調整を図った結果、訪問件数が増加した。(ベイスターズ・マリノス)</p> <p>【総経費の内訳】 (令和4年度→5年度)久里浜駅自転車等駐車場と消防団第40分団団所に壁面装飾を行ったため、業務委託料が増加した。(マリノス) (令和5年度→6年度)壁面装飾の委託が完了したことによる減。</p>		
今後の事業の方向性	引き続き、プロスポーツチームを身近に感じられる環境を活かした取り組みを実施し、追浜・久里浜地域を中心としたスポーツによるまちづくりを一層推進していく。		